ページングの利用促進と放送参加より多く

有放＝57年度事業計画決る

村有線放送協会は、二月八日委員会を開き、昭和五十六年度事業報告及び昭和五十七年度の事業計画を審議し、万場一致承認決定されました。

五十六年度事業報告の中で次のような問題点が報告され関係者の協力を呼びかけています。

まず、ページング放送（地区内放送）がわずか七地区二六回しか利用されなかった。

村内一〇地区に集会所や区長宅など二四箇所に設置されています。自治会、分館、地区の各種団体の会議や催物の連絡、コミュニティ活動に利用を期待しています。

また、毎日放送しているお知らせ番組は、七六％が役場と農協からのお知らせです。

村内の各機関、団体の会議や催物の連絡に大いに活用していただきたいところです。

ニュース放送が少ないという指摘があります。現在、ニュースは、土曜日の夜〝今週のニュース〟として放送していますが、ニュースバリュウからいって毎日放送されるよう体制の充実が要請されています。

五十七年度事業計画は、前年度の問題点を考慮して、

①自主番組の充実
②ニュース放送の日常化
③ページング放送の活用促進
④各団体の放送利用促進
⑤村民の放送参加推進
⑥放送体制の充実

などの方針をかかげ〝村民に身近かで、親しまれる放送〟を日曜日を除き、年間三一二回実施していく予定です。

（自主番組計画2月号で既報、各表は56年度の放送実績）

ニュースお知らせ 利用実績
56年度（S55.12～56.12）

ニュース会議	実	147回
催物	延	316
その他	延	1,344
計	延	1,263
		3,070

自主番組放送実績
56年度（S55.12～56.12）

一般行政	106回
農事	72
教育文化	102
生活	30
季節、村内動き	27
その他	2
計	339

テレホンガイド利用実績
56年度（S56.5～56.12）

農作業メモ	934回
生活メモ	444
計	1,378

ページング放送利用実績
56年度（S56.4～56.12）

地区	回数
横越下	1
川根内	2
沢谷海	5
焼本山	3
木津	5
二本木	7
小杉	3
計	26

短歌

横越歌壇

ベルの音に耳そばだてて元旦に男の児産れたる朗報を聞く　遠藤　左岸

解け合わぬ言葉の残りが気にかかりまたも繰り返す夜半の目醒めに　戸石ジュン

五頭嵐吹雪が去来す湖の辺に白鳥讃歌の石碑翳る　田村きよし

亡父が植えし生れた記念の銀杏の木五十余年の風雪に耐えて　佐久間　順

地鳴立て除雪車過ぎし静寂の戻るを待ちて朝をまどろむ　田村　茂理

雪やみてひともとさ枝揺らしつつ小鳥啄む花のくれない　建部　すま

湯けむりの中に柚子の香漂よいて思うことなき初風呂の中　南場　愛子

ひしひしと寒さの透るこの部屋に梅のうつり香ふくいくとながるる　田辺タケノ

杉群の闇をぬきくる遠灯り己れうごけばすぐにかくるる　田村　忠雄

煽りくる吹雪の中に躰をかばい立ち竦みつつ視野定まらず　白柏　沙妥

降る雪の音に案じて起きにしがいまだに暗き氷点下の朝　中川美英子

三男と二年参りの帰り道清らに光る星座語りぬ　長谷部静恵

第九回 新春俳句大会

第九回新春俳句大会が一月三十一日、公民館で二十一名が参加して開催されました。その成績をご紹介します。

○席題「春近し」（春隣・春遠し・春待つ）「襟巻き」（肩掛け・角まき・ショール）「冬芽」（冬蕾・鱗芽・冬木の芽）

一位　笠原　茶山　木津
二位　市村横雲子　横越
三位　今井　夫子　木津

○高点句

田村きよし　横越

春近かし漬物に振る二番塩

○一句競吟　題「湯豆腐」

一位　加藤　喜秋　木津

湯豆腐に車座の輪を縮め寄り

二位　坪谷十九一　木津

湯豆腐に旅の土産の燗徳利

三位　市村　湖月　横越

湯豆腐のまだ煮えぬまのコップ酒

第二十五回俳句大会

第二十五回俳句作品公募を昨年の十一月行ないました。その結果について紹介します

○兼題「読初」「七草」（春の七草・若菜・若菜摘・薺・薺粥）「凧」（いかのぼり）

一位　坪谷十九一　木津
二位　増渕　一路　横越
三位　小林　竹生　二本木

○兼題高点句

一位　神田　斗子　横越

息かけて拭く読み初め老眼鏡

二位　増渕　一路　横越

天にのせ子の手に託す凧の糸

三位　今井　夫子　木津

七草の事も受け継ぎ妻の座に

第26回俳句作品公募

。句題　三題通じて六句
春田（春の田）
入学（入学式・入学児・新入生・進学・入園）
田螺（たにし）（田螺鳴く・田螺取り）
。〆切　三月十五日（月）
。提出先　横越村公民館
多数の方のご応募をお待ちしています。

学校体育館 利用団体募集!!

。対象　学校体育館を年間定期的に利用したい団体で責任者が、はっきりしていること。
。場所　横越小学校体育館
。申込　三月二十日までに公民館へ。申込用紙は公民館にあります。
。期間　昭和五十七年四月～九月末日まで（六カ月間）

その後は、再登録で利用可能。

横中生徒会役員改選

立会演説で抱負を訴う

新会長に佐藤英也君

横越中学校生徒会では、新学期にむけてさる二月二日、三日役員改選を行ないました

堂々と渡り合う立合演説会

この選挙は一、二年生で会長、副会長を選ぶもので会長には三名が立候補、副会長には、定数男女各一名に対し男子三名、女子二名が立候補しました。

候補者八名という激戦もあってか、関心も全校に高まり投票日の前日に開いた立会演説会では、広い体育館は熱気に包まれ入れ替り訴える各候補者の抱負〝生徒会デーや、あいさつ週間を活発に〟〝生徒同志の話し合いを重視、堅いイメージを一新したい〟などに耳を傾けていました。

投票の結果は、会長は一回目の投票で過半数に達したものがなかったため、上位二名で翌日決戦投票が行なわれ佐藤君が当選。また、副会長には、植木君、佐久間さんがそれぞれ当選しました。

◎生徒会新役員

会長　佐藤　英也
副会長　植木　賢治
〃　佐久間律子

交通安全講習会

受講すれば免許更新時に免除

自動車運転免許の更新をする際は、交通安全講習会の受講が義務づけられていますが今度、免許更新の簡素化、及び運転車の利便を図ることから、地元で開く自動車交通安全講習会を受講しておくと、免許更新時には講習が免除されることになりました。

横越村交通安全協会では、この趣旨を踏まえて交通安全の啓蒙と兼ねて、次の日程で昭和五十七年の講習会を計画しましたので、ぜひご利用ください。

57年交通安全講習会日程

月日	時間	場所
3月8日（月）	午後7時～9時	
6月7日（月）	午後7時30分～9時30分	横越村農協会館二階
9月6日（月）		
12月6日（月）	午後7時～9時	

文化講演会

講師　NHK 青木一雄氏
テーマ　「繁栄を招く話し方」
日時　3月30日（火）午前9時半
会場　横越村公民館
※入場無料
主催　横越村商工会
協賛　新栄信用組合
横越支店

昭和56年度県下中学生人権作文 ＜入選作＞

人権は豊かな知性と思いやり（神田　勇）

人権についての考え

横越中学校三年　斎藤　恭宏

五十六年七月十七日、人権についての講義がありました。その話を聞いた時「アッ、そういえば……」と思ったことがありました。僕にもそんなけいけんがあったと思ったのです。

たしか二年の冬休みのくれごろだったと思います。新潟まで映画を見に行くため、友達と二人でバスを利用した時の事でした。話をしながら、ゆかいにのっていると、「山二ツ盲学校入口」のバスていにとまりました。そこから、白いつえをついた女の人が、つきそいの人といっしょにのりました。たまたま僕が「ゆう先座席」にすわっていて、しかも席がいっぱいだったので、僕はたって席をゆずりました。その人は片言ですが、僕にお礼をいってくれました。とてもその時うれしかったです。しかし、そのすぐ後です。いかにも人相の悪そうな人が乗ってきました。ふつうであれば立つのがとうぜんなのでしょうが、その人は、ずうずうしくも、さっき僕が席をゆずった人の前に立って、いやがらせをして、その人をいやがらせました。そしてその人が立とうとした時つきそいの人が立って、「こっちのばしょへどうぞ」と言った。そして男の人の所に、もんくをいいにいきました。とつぜん男の人が「このバスはあんたらのバスかい。俺が、どこへすわろうとかってじゃないのかい。ちがうかヨー」と、どなりました。僕はムカッとしましたが、とてもこわくてなにもいえませんでした。

僕だけじゃありません。みんなそうでした。それで映画を見てもおもしろくなく、とてもはらが立っていました。

講演を聞いて、こんなことを考えました。

「こんな事がないように人権があり、平等があるはずなのに、なぜ強い者がいばって、弱い者がすみの方で小さくなっていなければならないのだろうか。」と

人権というものは、その人がオギャーと生まれた時からあたえられたものであり、平等はすべての人が差別なく、同じようにくらせるように作られたものです。

しかし、今の場合、平等それよりも、弱い者へのいたわりさえもない、自己中心的な考えで実行するひどい奴だと思いました。人権がある以上、男の人のいったのもいちりあるかもしれません。が、もう少し、他人の事を考えてやるべきだったと思います。

僕は、このできごとで、ゆう先座席をもうけることは、かえってがい当者に、差別感をあたえていると思えるのです。なぜかというと、ふつう、自分より弱い者はいたわるのがじょうしきです。だから特別席をもうけなくても、自然に席をゆずるのがとうぜんの事だと思うのです。だから特別な席をもうけることは、かえってその人を差別し、また、平等という点でなっとくできないのです。しかしそれは、多少の苦労をやわらげるつもりで作られたもの、という点ではさんせいです。が、しかし、特別のあつかいをするのは、かえってその人を差別し、傷つけているようで、とてもわざとらしいと思うのです。

ですから、人は人権というものを保しょうされている限り、それに反せぬよう、また、みんなが平等であるために協力しあい、時には、いたわりあい、はげましあってはじめて平和があり、平等があり、そして一人一人の人権がなり立っているのだと思います。

だから、もっと社会に目を向け、もう一度〝福祉〟というものを、考えなおしてみるべきだと僕は思います。

ゆずってゆずられ楽しい暮し（本間　喜三）

一人の人権みんなの人権（長谷部　良幸）